

鳥取大学医学部附属病院

研修センターだより

2020.9

37



鳥取大学医学部附属病院卒後初期臨床研修における研修理念

将来、医療現場のリーダーとしてふさわしい安全・安心で、
最高・最適な医療を提供できる優れた医療人となるために、

1. 医師としての高い倫理性・道徳性を修得する。
2. 常に患者および家族の立場に立ち、医療を実践する。
3. 日常診療で頻繁に遭遇する病態・疾患に適切に対応できる基本的臨床能力（知識、技能、態度）を修得する。

ニュース・行事・話題

新たな研修協力施設のご紹介

大山診療所

大山町国民健康保険大山診療所 所長 朴 大昊

みなさんこんにちは、大山診療所の朴大昊です。大山診療所は2019年から鳥取大学の家庭医療教育ステーションとして生まれ変わりました。地域丸ごとをみて総合力をつけることのできる拠点として医学生や後期研修医の教育はもちろん、初期臨床研修の地域研修も今後受け入れていく予定です。診療所は大山の麓、大山国際スキー場から車で10分ほどのところにあって、1日20-30名程度の外来、1日1-3件程度の訪問診療を行っています。

受診患者は2ヶ月の乳児から103歳のおばあさんまで、高血圧や糖尿病、アレルギー性疾患、COPD、変形性関節症やフレイルなどの慢性疾患、風邪や腹痛、発熱といった急性



疾患はもちろん、虫刺されや異物、外傷などの小外科、予防接種や終末期ケア、看取り、精神疾患のフォローなど多岐に渡ります。

また診療圏には観光業から農業まで20近くの多様な集落があり、地域の老人会や地区の健康講座、周辺企業や学校/保育園との連携し

た取り組みなどもあります。

また診療圏には観光業から農業まで20近くの多様な集落があり、地域の老人会や地区の健康講座、周辺企業や学校/保育園との連携し

た取り組みなどもあります。



ます。地域の中に入って地域医療の未来を住民と創っていく「地域医療を考える会」や「大山健康プロジェクト」などもあり、地域志向のアプローチを学ぶにはうってつけの場所と言えます。

初期臨床研修ではなかなか学ぶ機会の少ない外来ですが、コモンな疾患のエビデンスを抑えしっかりフォローできるようにすること、そして地域全体を丸ごと診る目を養うことができる研修施設だと自負しています。



西伯病院

南部町国民健康保険西伯病院 院長 高田 照男

今年度より新たに臨床研修病院をお受けすることになりました。西伯病院は急性期、回復期、慢性期の病床機能を持った一般病棟と、精神一般、精神療養の精神病棟で構成されています。中山間地にあって、通所部門や訪問看護ステーションを併せ持ち、地域包括医療・ケアの実践に努めています。また身体科と精神科の協働を通して、県

内では精神障害者の合併症治療を担える数少ない病院の一つです。研修が有意義なものになるよう期待していますので、ご要望や疑問があればスタッフにお気軽に声をかけてください。



令和2年4月1日付けで卒後臨床研修センター（以下卒研センター）教官を拝命しました、矢田貝と申します。平成20年鳥取大学を卒業し、初期臨床研修は松江赤十字病院にて行い、現在は循環器・内分泌代謝内科に所属しています。大学時代はバスケットボール部に所属し、山田七子副センター長、前任の西村玲先生はOGとして大変お世話になっておりました。今回卒研センターで働かせていただくこととなり、何かの御縁を感じております。



私は昨年夏に出産し、育児中です。今回のお話をいただいた際は、小さい子どもを育てながら勤まらさうかと不安がありました。しかしながら、卒研センターの先生方・スタッフの方々にはとても柔軟にご理解いただき、日々サポートしていただくことでスムーズに勤務できております。また大学病院所属保育園（すぎのこ保育園、とりっこハウス）の存在は大きく、今のところ不安を感じることはほとんどありません。私をサポートしてくれる家族、毎日元気に保育園に通ってくれる子どもにも感謝です。

しばらくは時短勤務としておりご迷惑をおかけします。まずは自分に命じられた業務、自分にできる業務に集中して努めてまいります。まだまだ力不足ではありますが、卒研センターの先生方・スタッフ、研修医の先生方のお力になれば幸いです。皆さま何卒よろしくお願い申し上げます。



Web開催臨床研修合同説明会

本年2月に予定していた鳥取大学医学部附属病院各診療科と山陰・関西たすきがけプログラムの協力型病院による（初期）臨床研修プログラムの説明会は、新型コロナウイルス感染症拡大のため、やむを得ず開催を中止しました。

代わりに、鳥取大学での研修の特徴と、8つのプログラムの説明動画を作成し、YouTubeにアップしました。「鳥取大学医学部附属病院卒後臨床研修センター」のチャンネルに「2021年度研修プログラム説明センター長あいさつ・到達目標・鳥大病院の紹介」、「自由選択・山陰たすきがけ・関西たすきがけプログラム」「外科専門プログラム」「精神科プログラム」「小児科系プログラム」「産科婦人科プログラム」「救急・集中治療医プログラム」「歯科研修プログラム」をそれぞれアップしておりますので、是非ご視聴下さい。



研修医室改装しました。

卒後臨床研修センター 原田 未来

この度、研修医室、リフレッシュルーム、ロッカー室を改装しました。壁や床の張替え、研修医室各机に仕切りをつけてプライベートな空間ができるようにしました。

改装までの物品移動は、私が卒後臨床研修センターに採用されて以来1番大変な肉体労働だったので、研修医の皆さんには末永く大切にご使用いただけたら幸いです。

改装に携わってくださった皆様、ご多用の中お手伝いいただき誠にありがとうございました。



とりだい動画を更新しました。

鳥取県臨床研修指定病院協議会のホームページのとりだい紹介動画が3月31日にニューバージョンとなりました。

臨床研修の制度が変わったことに伴う手続きや、研修運営上の新型コロナウイルス感染症対応などがあり、お知らせできていませんでしたが、県内8病院の動画が掲載されていますので是非ご覧ください。



研修医今昔物語 ～私の研修医時代、そして今～

皮膚科 吉田 雄一

私は1994年(平成6年)に九州大学を卒業し、そのまま九大皮膚科に入局しました。鳥取大学には2006年から勤務しています。はじめに断っておきますが、今回真面目な話は一切いたしません。当時は皮膚科に直入局し、他科へのローテーションの制度もありませんでした。同期は9名で、1つ上の先輩方が6名いましたので、皮膚科だけで研修医が15名もいたということになります。医局の勧誘会で河豚をご馳走になったことが決め手だったのかもしれませんが、なんでこんなことが可能だったのかわかりませんが、当時は研修医の給料が安く、定員の制限も緩かったのでしょうか。医局はとても民主的で、外来医長、病棟医長、医局長(今の統括医長)は毎年選挙で選ばれていましたが、常勤のスタッフの数は限られており、研修医は医局の中で最も力を持った一大勢力でした。研修医を怒らせると大変なことになると容易に想像できるかと思えます(もしかすると医局の頂点に君臨していたのかわかりません)。



今、思い出してみても研修医は皆個性豊かで、仕事のペースや才能も様々でしたが、当時、経験した症例は取り合いだったような気がします。しかしながら、これだけ人数がいるとどんなに一生懸命仕事を探してもきっちり5時には仕事が終わります。皆でいつも飲みに行っていた記憶しかなく、楽しい思い出ばかりです。医局で暇そうにしていると先輩から研究を手伝ってくれないかと頼まれ、たまたま良い結果が出ると、また中洲に飲み連れだされるというようなサイクルでした。そのことが祟ったのか、今ではアルコールはほとんど受け付けられない体になってしまいました。

その後、時代は変わり、2年間の研修(ローテーション)は必須化されましたが、僕には逆に羨ましく思えます。自分の専門領域を選択した後はどうしても知識が偏ってしまうので、研修先で色々な経験ができるというのは貴重な財産です。Apple社の創業者、故スティーブ・ジョブスの言葉に「人生の点と点はいつか必ずつながる」というものがあります(Youtubeで検索すると出てきますのでぜひ見てください)。将来起こることは誰にも予測はできませんが、今日の前にある一見意味がないと思える仕事も振り返って考えてみるとなんらかの形でつながってきます。

研修医の皆さん、苦しいことも多々あるかもしれませんが、今の自分を信じて頑張ってください。いつか必ず役に立ち、皆の人生に大きな違いをもたらしてくれるはずですよ。

救急科 勝谷 純治

2020年4月から鳥取大学救急科に採用していただいた勝谷純治と申します。私が救急医を志したきっかけは偶然で、卒後臨床研修と3年目の後期研修で挫折を経験した私は、縁もゆかりもない北海道のとある陸の孤島で総合内科医をやることになりました。この僻地で個性的なバイト先生やタフな内科レジデントと知り合うことになり、急変時対応と当直で大変迷惑をかけてしまったことが始まりです。鳥取に来てみれば、幸運にも3月より赴任されたばかりの上田教授、吉岡先生にメンターとして面倒みていただき、非常によい時機に鳥大救急に来ることができたためぐり合わせに感謝しております。鳥取大学救急の特徴はドクターカー、ドクターヘリでのプレホスピタルが充実している点です。現場での迅速・適切な評価を行い、救命率向上を目指すという目標を掲げ、院内外で多種多様な初療の経験を積むことができます。ICUでは術後管理から敗血症、代謝異常など重症患者の集中治療管理を学べます。Hospitalistとして内科的管理の知識も身につきますし、胸腔ドレーンや縫合、熱傷など外科的な処置も経験できます。感染症内科、整形外科をはじめ、ほとんどすべての診療科と関わることになり経験できる症例は幅広いです。救急科はチーム制、完全交代制です。私自身、主治医制が辛かったこともありチーム制の恩恵にあずかっています。チーム制では臨床での経験不足、知識不足を指導医に補っていただき、また非常に優秀でよく勉強されておられる研修医が更に成長していく様子から、医療教育の現場としても大変刺激を受けております。鳥大救急の先生方は様々なサブスペシャリティを持っておられ、また上田教授をはじめ出身・経歴も多様化してきており、刺激的なチームになってきていると感じます。医療圏も米子地区を中心に島根、広島、岡山まで広範なエリアの救急医療を担っており、大変やりがいのある日々を過ごすことができます。是非とも、研修医の先生方に鳥取大学の救急を経験していただきたいと思っております。



研修医日誌

鳥取大学医学部附属病院
医科研修医1年目 長田 瑠璃

研修医1年目の長田瑠璃と申します。鳥取県米子市出身、川崎医科大学卒業です。今年4月から鳥取大学医学部附属病院で自由選択プログラムに沿って研修させていただいています。母校を離れ、地元の大学で研修することを決めてからは馴染めるか不安でしたが、気軽に話せる同期や親身に相談に乗ってくださる2年目の先輩方、丁寧に指導して下さる先生方に恵まれ、忙しくも充実した研修生活を過ごしています。



研修生活が始まってから半年が経ちますが、初めて覚える業務内容や月単位で変わる科の勉強に必死で、あっという間に時間が過ぎていきました。半年の間に、内科3つと麻酔科で研修させていただきました。内科では、基礎疾患として多い疾患や救急外来でよく診る疾患を中心に、受診までの経過、必要な検査、診断法、その後の治療経過を学びました。また、頻用薬の使い分けや輸液、抗菌薬の使い方等も教えていただき、大変勉強になりました。麻酔科では全身管理と手技を学ぶことができました。当直では、初めの頃は全く動けませんでした。救急の先生方や2年目の先生方に丁寧に教えていただきながら、これまで学んだ知識を統合して少しずつ自分なりに考えて動けるようになってきました。

思うようにいかないことも多いですが、これまで学んできたことを実際に活かした時は嬉しく思います。そして何より、患者さんとお話しをすると元気を頂き、やりがいを感じると同時により一層頑張ろうと思えます。これからも常に一番大変な思いをしているのは患者さんであることを忘れず、自分の進路に向けて有意義な研修生活になるよう、日々邁進していきたいと思えます。今後ともご指導の程よろしくお願ひ致します。

鳥取大学医学部附属病院
研修歯科医 井田 すみれ

はじめまして、研修歯科医の井田すみれです。

歯科医師臨床研修の期間は1年間で、本院研修プログラムでは1ヶ月を関連病院、残りを本院歯科口腔外科にて行います。

歯科の臨床研修は大学歯学部附属病院や市中病院のほか、一般歯科開業医でも受けられます。歯学部附属病院では、“歯科”とひと言にいても診療科が専門分野ごとに細分化されています。虫歯科、歯周病科、義歯、予防歯科、小児歯科、矯正歯科、口腔外科、スペシャリティーズ歯科、周術期口腔ケア部門、摂食嚥下リハ部門。。。等々、歯学部を覗かれたことのない方には驚かれる程あるんです。一般歯科開業医さんは、ご想像の通り町のかかりつけ歯医者さんです。



一方、当院歯科口腔外科は、医科入院患者さんの歯科治療や周術期口腔ケアを行う“病院歯科”的役割と、一般歯科開業医で治療困難な口腔外科領域疾患（埋伏智歯抜歯、腫瘍、急性炎症、外傷、先天性疾患等）を扱う“口腔外科”としての役割が大きいです。また、夜間休日の当直もあり、歯の破折や口腔内外創傷、骨折、急性炎症の方が来られることが多い印象です。

高齢化が進み、様々な疾患・複雑な背景を持つ患者さんが歯科受診されることがますます多くなると考えられます。口の中だけでなく全身状態を把握し、より良い治療ができる歯科医師になりたいと思い、私は本院での研修を志望しました。

医科入院患者さんでは、医科治療中の疾患や治療内容をできる限り把握し、退院転院を気にかけて歯科治療計画を立案するよう心掛けています。歯科入院患者さんでは静脈路確保から全身麻酔下の手術、周術期管理に関わらせてもらい、日々新しいことを経験し学んでいます。

そんな少し刺激的な日々ですが、卒後臨床研修センターに帰ると、私のちっぽけな悩みや質問にも親身になって耳を傾け、歯科の私にもわかりやすい解説やアドバイスをしてくれる医科同期、2年目の先輩方に恵まれて、とても充実した毎日を過ごしています。

鳥取大学医学部附属病院
医科研修医2年目 生田 健人

私の研修プログラムは関西たすきがけプログラムと呼ばれ、研修1年目に関西地方の市中病院、研修2年目に鳥大病院で研修するプログラムです。私が本プログラムを選択したのは規模の異なる病院での研修を希望したからです。

本プログラムの魅力は大学病院だけではなく市中病院での研修を行うことで、あらゆる疾患に対して幅広く研修することができることや、関西地方の病院で人間関係を形成できることが挙げられます。



職員食堂 GOZZOの食レポ 3品目

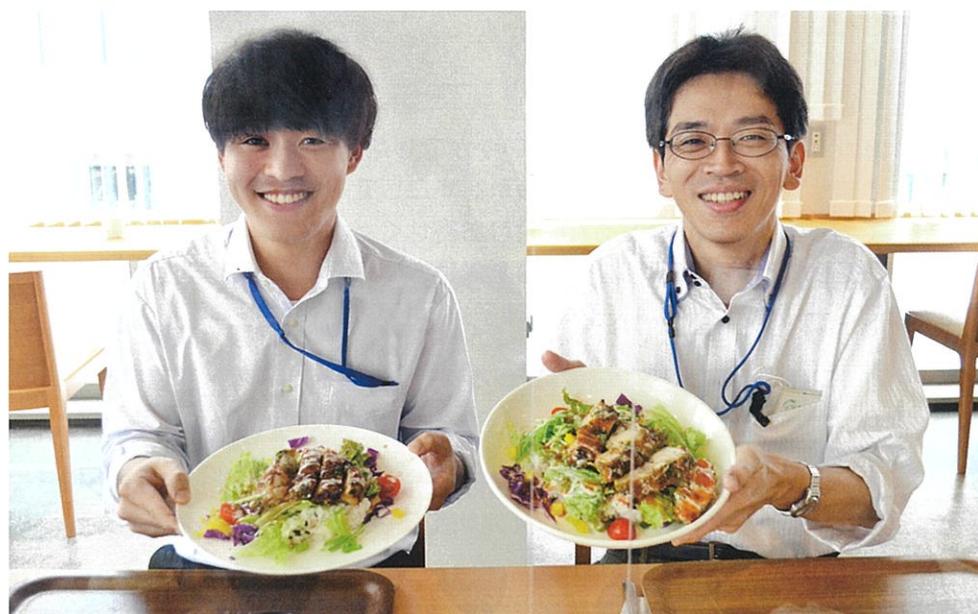


今回は、総務課職員係 若林 龍さんに食レポをお願いしました。

バジル風味の効いたチキンとチリソースのかかった五穀米との相性が抜群でチリソース、ドレッシングベースが非常にさっぱりしていて暑い時期にピッタリです。

ボリュームがあり、男性にはたまらないチキンと五穀米とのコンビをお昼に食べることで午後からの業務に向けてエネルギーチャージできました。

ドレッシングのかかった野菜に歯ごたえがあり、良いアクセントになってました。五穀米、チキン、野菜が一度に摂取でき、バランス面でもおすすめだと思います。



令和2年度後期行事予定

10月5日(月) 17時	第4回卒後臨床研修委員会(マッチングリストの承認)
10月20日(火) 14時	歯科マッチング公表
10月22日(木) 14時	医科マッチング最終公表
11月3日(火・祝)	鳥大JMECC(※予定。直前の感染症動向により中止もあり)
11月～12月	マッチ学生の仮契約、採用準備、次年度研修編成
12月10日(木) 17時	第2回医師研修管理委員会
1月中旬	卒後臨床研修委員会(ベストレジデント賞、優秀指導医賞の承認)
1月27日(水) 17時30分	第3回医師研修管理委員会(次年度研修・研修補助金割振り承認)
1月29日(金) 17時	レポート提出及び1月までのEPOC入力締切り
1月30日(土)～31日(日)	第114回歯科医師国家試験
2月6日(土)～7日(日)	第115回医師国家試験
3月中旬	卒後臨床研修委員会(修了判定・プログラム承認他)
3月16日(火) 14時	医師・歯科医師国家試験合格発表
3月18日(木) 16時	医師研修管理委員会(修了判定・募集要項とプログラム承認他)
3月18日(木) 17時	歯科医師研修管理委員会(修了判定・募集要項とプログラム承認他)
3月25日(木) 16時	令和2年度卒後初期臨床研修修了式

※令和3年度

4月1日(木)	鳥取大学医学部附属病院採用オリエンテーション
4月2日(金)	プレローテーション開始

編集後記 今年度前半の研修センターだより、いかがでしたでしょうか。お気づきかとは思いますがレイアウトがリニューアルされました。みなさまのコロナ疲れをすこしでも緩和すべく、背景はさわやかな梨色です。今後もさらに改良を企んでおります。感想などあればぜひお寄せください。

なお、この研修センターだよりは当院で研修を修了した先生方にも配布しています。勤務先や住所が変更になった場合は下記の連絡先までご一報ください。(矢田貝菜津子)



鳥取大学医学部附属病院 卒後臨床研修センター

〒683-8504 鳥取県米子市西町36-1 TEL: (0859) 38-7025 FAX: (0859)38-6974
e-MAIL: jimsotsugo@ml.adm.tottori-u.ac.jp ホームページ: <http://sotsugo.med.tottori-u.ac.jp/>